

# 水産業・漁村の多様な役割

日本学術会議

Science Council of Japan

～Since 1949～



## なぜ、いま、「多面的な機能」が重要なのか：

水産業及び漁村は、水産物を供給するだけでなく、物質の循環、環境の保全、海難救助等による国民の生命財産の保全、保養・交流・学習などの場の提供、漁村文化の継承などのさまざまな働きをしています。今回の答申は、同様の諮問を受けて平成13年11月1日に日本学術会議が答申した「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」と並ぶものです。その背景には、食料あるいは原材料の供給を担い、また歴史と文化を形成してきた日本の農業・林業・水産業などの第1次産業が、経済性ばかりを重視する現代社会の中で低迷し、その本来機能（食料・原料の供給）すらが弱体化することにより、健全な社会が崩壊することの懸念が高まっていることが挙げられます。それは、美しい日本の伝統と文化が消滅することを意味するからです。

日頃目につきににくいところで展開されている水産業・漁村などの活動が、実は国民生活を根元的にサポートしているものであり、それを国民皆が認識することが、21世紀日本の環境の保全と豊かな生活の保障のために極めて重要であると考えられます。

---

## 水産業・漁村はいま：

日本では、古来から水産物は重要な食料であり、水産物の採集は大切な生産手段でした。また、漁村は生活の拠点として交易の要所ともなっておりました。水産業は、同時に工芸品の原料を提供し、漁労（水産物を採集する）文化は稲作文化と共に日本固有の生活文化を形成したものです。

水産業・漁村の最も重要な役目（本来機能）が、食資源供給であることはいうまでもありません。日本においては、国民が摂取する動物性タンパク質の40%を水産物が提供しており、近年肉類の消費が大きく増えたとはいえ、水産物の消費量も相変わらず増加しています。ただ、消費の半分は輸入に頼っており、国内自給率はおおよそ50%と低く、食料戦略上はその増大を図ることが必要と考えられています（※後で述べる物質循環とも深く関係します）。

---

## 資源管理が重要な仕事：

このような現況を背景として、「漁業が衰退することなく、適正な増養殖業に活路を求める水産業が存続する」ことが、「多面的な機能」を維持増進する前提となり、資源管理型漁業、環境保全型増養殖業、水産物の非食料利用、漁村の活性化の四つの側面からの推進が必要となります。

第1の資源管理型漁業は、二つの制度を含んでおり、その一つは沿岸漁業を対象とし、漁業者組織の自主管理によって水産資源を利用する制度であり、他は沖合漁業を対象とされ、国連海洋法条約に基づいて定められた排他的経済水域における生物資源の漁獲可能量内で採集するものです。いずれも、水産物は適正に管理すれば自律的に再生する資源であると認識し、これを持続的に利用し続けていくことを基本理念としています。

第2の環境保全型増養殖業は、自家汚染を厳しく諫め、環境収容力（生態系が自律性を保持できる範囲）以上の放流をすることなく、安全で安心かつ安定した人為的な生産技術の開発（稚魚の放流による自然的増殖、あるいは養殖施設による生産など）を目標にして、適正規模の生産量増大を意図しています。

第3は、水産物を食料資源として利用するに止まらず、人の健康増進や医薬品利用あるいは工業品利用などの原材料として、さまざまな活用を目指すもので、いわゆるマリンバイオテクノロジーの一環として、今日世界で最も注目されているところです。

第4は、急速に変化しつつある漁村の地域社会としての役割で、人に情緒的安定をもたらす保養・釣り・海水浴・セーリング・親水などの諸活動は、漁村と一体化したマリンレジャーとして一般化していることは周知のところでは。

このように、現在の水産業・漁村は、産業規模が縮小し、輸入圧力に喘ぎながらも、資源管理の立場から国民の食料供給と情緒安寧、つまり胃袋と心のために貢献してきていることを高く評価すべきであり、そのうえで「多面的な機能」の意味を理解することが望まれます。

### 水産業・漁村の「多面的な機能」の内容：

水産業・漁村の「多面的な機能」は、生産活動が自然生態系に働きかけるものであるところから「環境」に係わる部分と（図表の1，2）、生産活動が海（水）域を管理する形で行われるところから「場（空間）」に係わる部分（図表の3，4，5）とに大別されます。

食料資源の将来にわたる供給の保障は、先進国として当然の責務ですが、周囲を海で囲まれた日本の水産業は沿岸浅海域が主たる活動の場であるために、水産業が物質循環系を補完する（※沿岸浅海域では、水産物が陸域から流入した栄養塩類を食物として育つものですから、水産物の採集はとりもなおさず塩類を再び上流に還元することになります。環境収容力以上に流入すれば、塩類が蓄積して汚染となります。）点で極めて重要なものとして位置づけられます。

健康の増進あるいは医薬品原料の供給機能は、魚食国日本人の平均寿命が世界一であることから注目されており、「海の医薬品」としていまや世界でその開発が競われています。特に魚のタンパク質は、人の体内で作ることができない必須アミノ酸8種類をバランスよく含んでおり、また魚介類には（植物プランクトン由来の）多価不飽和脂肪酸であるエイコサペンタエン酸(EPA)、ドコサヘキサエン酸(DHA)が特に多く含まれています。その他、魚にはビタミン類も豊富です。

自然環境保全の働きにおいては、砂浜、渚、干潟そして藻場に棲む生物の生態系が極めて豊かで、二枚貝類の水質浄化機能や海藻・海草類の光合成などの作用は、それ自体が環境保全機能として重要であり、これを護るための漁民の活動が多面的な機能を維持するものと高く評価されています。

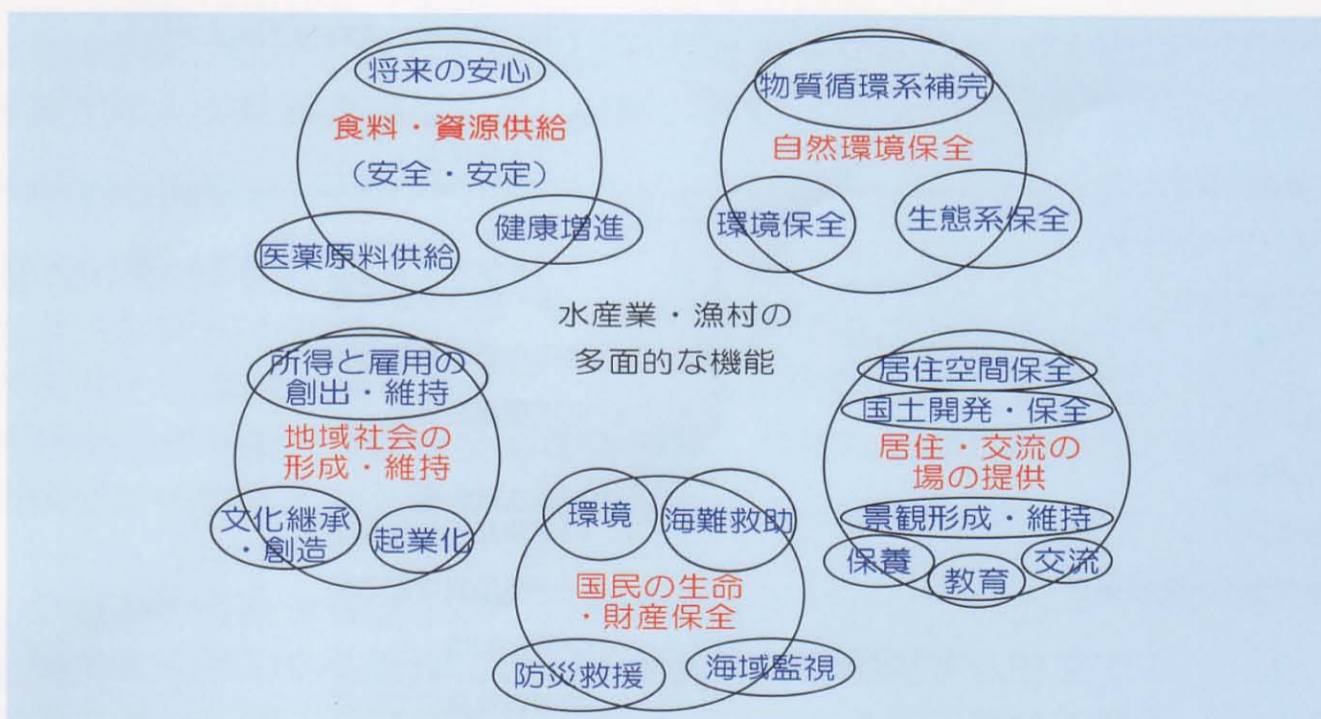
漁業は、若い漁業者だけではなく、高齢者にとってもそれなりに適応できる技があり、生きがい漁労として豊かな社会形成が可能とされています。海のツーリズムあるいはマリンレジャーは今後ますます盛んで、漁村沿岸域は美しい国際観光資源を形成すると共に、都市民に最高の憩い（海水浴、クジラやイルカによるタラソセラピー）・レクリエーションを幅広く提供する場となっております。

海域情報網の形成による国民の生命財産保全は、水産業に独特な機能であり、今後もその活用が期待されているところです。

(多面的な機能の表)

- 1. 食料・資源の供給
  - ①安全・安定な供給：自給率向上（本来的機能）
  - ②将来への安心機能：食料安全保障
  - ③健康の増進機能：健康安心
  - ④医薬品原料の供給機能：国民医療
  
- 2. 自然環境保全
  - ①物質循環系の補完機能：人間活動の循環系修復
  - ②環境保全機能：水質浄化 渚クリーン 魚付き林
  - ③生態系保全機能：生物資源保全 干潟 藻場
  
- 3. 地域社会の形成・維持
  - ①所得と雇用の創出・維持機能：関連産業 高齢者就労
  - ②文化継承・創造機能：郷土（固有）文化 食文化
  - ③起業化の機能：漁村と海域の総合的利活用
  
- 4. 居住や交流の場の提供
  - ①居住空間保全機能：国土利用
  - ②保養機能：遊魚 ツーリズム タラソテラピー
  - ③交流機能：観光 民宿 朝市
  - ④教育機能：臨海学校 修学旅行 郷土文化
  - ⑤国土開発・保全機能：半島・離島
  - ⑥景観形成・維持機能：白砂青松
  
- 5. 国民の生命財産保全
  - ①海難救助機能：漁業者 遭難者 レジャー
  - ② 防災と救援機能：津波 災害救援 汚染除去
  - ③ 環境モニタリング機能：環境データ 資源管理
  - ④海域監視機能：不法操業 不審船 情報ネットワーク

(多面的な機能の図表)



このリーフレットは、農林水産大臣の諮問「地球環境・人間生活にかかわる水産業及び漁村の多面的な機能の内容及び評価」（平成15年10月8日）に対して、平成16年8月3日に日本学術会議が行った答申に基づいて作成されました。

▶ 詳細については、日本学術会議のホームページ中の「勧告・対外報告等 第19期 答申」に記載している「地球環境・人間生活にかかわる水産業及び漁村の多面的な機能の内容及び評価について」(<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/shimon-19-1-1.pdf>) を御覧ください。

## サイトマップ

### JAPANESE

#### 日本学術会議

- ・ 日本学術会議とは？
- ・ 日本学術会議の組織図
  - └ 歴代会長・副会長一覧
- ・ 国内活動
  - └ 広報協力学術団体一覧（インフォメーション）
- ・ 国外活動
  - └ 日本学術会議の加入国際団体（インフォメーション）
  - └ 代表を派遣した学術関係国際会議一覧
  - └ 二国間学術交流派遣実績一覧
  - └ アジア学術会議
  - └ 国際学術協力事業一覧
  - └ 日本学術会議によるIGBPシンポジウム開催状況
- ・ 活動の実績
- ・ 活動計画
  - └ 19期
  - └ 18期
- ・ 法の一部を改正する法律
- ・ 改革について
  - └ 日本学術会議の在り方に関する専門調査会
  - └ 日本学術会議の在り方に関する委員会
  - └ 日本学術会議の在り方について（中間まとめ）
  - └ 日本学術会議の在り方について
  - └ 日本学術会議改革推進委員会
  - └ 日本学術会議の改革の具体化について
  - └ 日本学術会議法の一部を改正する法律
- ・ 日本の計画
- ・ 研究連絡委員会及び専門委員会
- ・ 学術情報データベース

#### 研究者サロン

- ・ 18期対外報告一覧
- ・ 17期対外報告一覧
- ・ 16期対外報告一覧
- ・ 研究連絡委員会
- ・ 専門委員会
- ・ 常置委員会
- ・ 特別委員会
- ・ 各部報告
- ・ 運営審議会附置委員会

#### インフォメーション

- ・ 会議予定
- ・ 公開講演会・シンポジウム
  - └ 第18期公開講演会・シンポジウム開催済一覧
- ・ 主催国際会議
- ・ 共同主催国際会議
  - └ 過去の開催実績
  - └ 参加者募集要項
- ・ 会長コメント
- ・ 公表資料
  - └ 第19期 勧告・要望等一覧
  - └ 答申
  - └ 会長談話一覧（現在のところ報告事項なし）
  - └ 報告一覧
  - └ 第18期 勧告・要望等一覧
  - └ 答申
  - └ 会長談話一覧
  - └ 報告一覧
  - └ 第17期 勧告・要望等一覧
  - └ 会長談話一覧
  - └ 報告一覧
  - └ 記者発表一覧
  - └ 第16期 勧告・要望等一覧
  - └ 会長談話一覧
  - └ 報告一覧
- ・ 出版物
- ・ 印刷物
- ・ 日本学術会議図書館
  - └ 特色とあゆみ
  - └ 国際学術団体ニュースレターリスト
  - └ 学術研究団体の定期刊行物リスト
  - └ 新着図書
- ・ 第19期会員一覧
  - └ 五十音検索
  - └ 各期の会員一覧
- ・ 関連機関・団体リンク集
  - └ 日本学術会議の加入国際団体一覧
  - └ 国内関係学会一覧
- ・ 各部からのお知らせ
- ・ 特別委員会概要

#### おもしろ情報館

- ・ 科学者を志した理由
- ・ ノーベル賞世紀の旅
- ・ 学習と記憶
- ・ 循環型社会について
- ・ ゲノムについて

#### お問い合わせ・ご意見

### ENGLISH

- ・ The Science Council of Japan
- ・ Domestic Activities
- ・ International Activities
- ・ Action Plan for the Council's 19th Term
- ・ Highlights of Past Activities
- ・ The Representative Organization of Scientists
- ・ Structure
- ・ Roles and Activities
- ・ Pamphlet
- ・ Science Council of Asia
- ・ Japan Perspective
- ・ President's Comments



# 日本学術会議

SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

[SiteMap](#) [English](#)

HOME
日本学術会議
研究者サロン
おもしろ情報館
インフォメーション

SEARCH

▶▶▶ 2004/11/24: 日本学術会議主催公開講演会「どこまで進んだ男女共同参画」  
現在、参加申込みを受付けております。>> 詳細はこちらをクリックしてください。

### Information

- > 会議予定 **NEW!**
- > 公開講演会・シンポジウム **NEW!**
- > アジア学術会議
- > 主催国際会議
- > 共同主催国際会議
- > 会長コメント **NEW!**
- > 勧告・対外報告等
- > 出版物
- > 広報資料 **NEW!**
- > 日本学術会議図書館
- > 第19期会員一覧
- > 関連機関・団体リンク集
- > 外部に対する意思の表出
- > 特別委員会概要
- > 各部からのお知らせ **NEW!**
- > 学術情報データベース

### What's New

-  **2004/10/22 UP!**  
Information「会議予定表」を更新しました
-  **2004/10/21 UP!**  
第143回総会が開催されます
-  **2004/10/21 UP!**  
12月3日(金)に地域振興/九州・沖縄地区フォーラムが開催されます
-  **2004/10/20 UP!**  
Hot Topics「日本学術会議会員候補者に関する情報収集について」を掲載しました
-  **2004/10/19 UP!**  
Information「各部からのお知らせ(第7部)」を更新しました
-  **2004/10/19 UP!**  
Hot Topics「日本学術会議ニュース」を更新しました
-  **2004/10/18 UP!**  
Hot Topics「公開講演会・シンポジウム」を更新しました
-  **2004/10/12**  
Information「各部からのお知らせ(第3部)」を更新しました
-  **2004/10/12**  
英語版ホームページを19期に更新しました
-  **2004/10/8**  
Information「広報資料」に英文パンフレットを掲載しました
-  **2004/10/4**  
日本学術会議主催公開講演会「どこまで進んだ男女共同参画」を掲載しました

### Hot Topics

-  **日本学術会議主催国際会議**  
持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議  
2004 アジアの巨大都市と地球の持続可能性 **NEW!**
-  **学術研究団体主催の研究集会等開催一覧(平成16年度)**  
平成16年度に開催(予定を含む。)される、学術研究団体主催の研究集会等について掲載しました。
-  **共同主催国際会議のご案内**  
平成15年度までに209件を共同主催しております。
-  **日本学術会議研究連絡委員会及び専門委員会**  
下部組織の研究連絡委員会及び専門委員会のHPです。
-  **日本学術会議の改革について**
-  **日本の計画**  
21世紀の人類が歩むべき道を提案!!
-  **日本学術会議ニュース**  
来年10月の日本学術会議の新体制に向けて、毎月、日本学術会議の動向を紹介していきます。
-  **日本学術会議会員候補者に関する情報収集について**

▶ お問い合わせ・ご意見
Copyright 2004 SCIENCE COUNCIL OF JAPAN

日本学術会議では、ホームページを開設し、多くの方々に国内外の活動を始め、各種の情報を提供しております。ホームページアドレス (<http://www.scj.go.jp/>) に接続しますと、上記のトップ画面が現れます。

また、サイトマップは、左面に掲載しております。どうぞ御覧の上、御活用ください。

平成16年(2004年)10月  
編集・発行

## 日本学術会議

【お問い合わせ】

日本学術会議事務局庶務課  
〒106-8555  
東京都港区六本木7-22-34

TEL 03-3403-1906

FAX 03-3403-6224

URL:<http://www.scj.go.jp/>

E-mail:[info@scj.go.jp](mailto:info@scj.go.jp)

